社会貢献活動

インタープリテーション科誕生前後

誕生前の様子

平成 6 年、大阪自然環境保全協会に講座「大阪シニア自然大学」を開講しました。これがシニア自然大学校の始まりです。長井美知夫事務長の考えは、卒業生が自然観察会のリーダー、アドバイザーが務まるようにすること、言い換えると社会貢献活動実施するにあたってのリーダー養成をその使命として出発しました。

初年度（1 期講座生が担当）から服部緑地・都市緑化植物園でインタープリテーションの実施、万博公園で実施したかんでんネイチャーラリー、あべの自然教室等社会貢献活動を進めています。

翌年平成 7 年には錦織公園遠足下見ガイドツアーがスタート、同時に当公園で定期的に自然観察会（インタープリテーションと自然クイズラリー）や春秋のイベント（ネイチャーゲーム、手作り工作）を行いました。自然友の会と自然大学の共同事業でした。

万博公園でも定期的に自然観察会を行うとともに、万博開催 25 周年に当たることからイベントを行いました。

これ以外にも府下タンポポ調査への参加、高槻市子供会リーダー研修、ネイチャーワーク吹田、枚岡公園夏休み子供自然観察会、門真市立五月田小学校「トンボ池づくり」と自然観察会等、卒業生、講座生が一丸となって社会貢献活動に邁進していました。

研究科の誕生

平成 8 年、大学設立から 2 年が経過し卒業生が誕生していました。卒業生の進路をどうするか。その中で研究科構想が出てきました。従来までの授業とは全く異なり、テーマに基づき皆と一緒に楽しく、自分で学習（研究）するもの（長井事務長のことば）

最終的にはインタープリテーション科、環境科、昆虫科、植物科、ビオトープ科、野鳥科の 6 科でスタートしました。

誕生直後の様子

インタープリテーションという言葉はシニア自然大学設立時から使われています。一般的には「通訳」のことをいいますが、ここでは、自然と人間のあいだの通訳、すなわち、自然の発するメッセージを分かりやすく人々に伝え、自然とのふれあいを通じて喜びや感動を分かちあおうとする「解説活動」のことをさします。（インタープリテーション入門、自然解説技術ハンドブックより）

インタープリテーション科はここから出てきたもので、具体的な研究テーマは「イベントのリーダーを務めるための研究」（長井事務長の言葉）でした。これを機にインタープリテーション科（以下インプリ科という）は精力的に社会貢献活動していきました。

活動日の概要

現在と同じく毎週金曜日が活動日
第 1 週：各科の共通講義
第 2 週：自主活動
第 3 週：各科交代で観察会等実施
（平成 10 年度まで）
第 4 週：自主活動

初期の社会貢献活動

社会貢献活動は大阪シニア自然大学が創設された平成 6 年からすでに行われていました。当初は大学主催の行事に各科のメンバーが集まり一緒になって実施していくという形態がほとんどでした。

錦織公園での遠足ガイドツアーや平成 7 年に環境庁の提唱で始まったこどもエコクラブの活動にもインプリ科はコアメンバーとして、活躍していました。

インプリ科誕生までの社会貢献活動の色々

○H7　門真市立五月田小学校　生きものまつり

発表者：久富東九郎氏（2 期生、インプリ科設立に参加）

当校では“創立 20 周年行事”の一環として、教育目標に掲げる「環境教育推進」の見地から、全学年同日の観察活動が組まれました。

児童に“虫と植物（花）、人と植物の係り”を通じて発見の驚きや感動の喜びを味わせたいと考え、「ネイチャーゲーム」「生き物さがし、仲間さがし」「クラフト」「食べられる野草の試食」の 4 コーナーを設け実施しました。

将来小学校の自然観察会がインプリ科の主要社会貢献活動になりますが、その先駆け的活動だったと思われます。

○H7　錦織公園遠足下見ガイドツアー

発表者：長井成美氏（1 期生、インプリ科設立に参加）

松原安茂氏（2 期生、インプリ科設立に参加）錦織公園がフィールド、自然友の会主宰

遠足に訪れた子供たちが、今まで心にとめなかった草木のくらし、耳にも入らなかった森の生命の声、踏みつけて歩くだけだった足の下の落ち葉の世界などに、思いっきり心をときめかしてもらい、この先、自然と共に生きていく人に育ってほしいと願っています。

そのためには、まず、先生方に自然の不思議さやすばらしさ、楽しさ等を今まで以上に強く感じていただき、子どもたちにも体験させてあげていただきたいと思います。

マニュアルや冊子づくり

社会貢献活度を皆が同じレベルで行うにはツールが必要です。インプリ科が参画したものとして

・学校遠足マニュアル初版 1996 年 3 月 31 日発行

・第 2 版（増補改良）1997 年 4 月 10 日発行

企画編集：長井事務長他 2 名

調査執筆：11 名中インプリ科 4 名が参画

抜粋「地球環境問題がクローズアップされ、環境教育の必要性が叫ばれてはいるものの学校現場では、取組の方法が分からなかったり、実施する時間がなかったり等の理由で、必要性を強く感じながらもなかなか取り組むことができないのが現状ではないでしょうか。

そこで、従来から実施している「遠足」の中に、環境教育の視点でのプログラムを加えてみてはどうかと考え本冊子を作成しました。

自然とのふれあいは、遠くへ出かけなくてもいいのですが、自然度の高い野外にでるチャンスである「遠足」を利用しない手はありません。昆虫や植物の名前がわからないからとしりごみをしがちですが、名前にこだわる必要はありません。先生方もプログラムを子供たちと一緒に楽しむ気持ちで気軽に実施してみてください。」

インプリ科における社会貢献活動

錦織公園遠足下見ガイドツアーはインプリ科設立後も主要な社会貢献活動の一つになりました。非常に盛況でしたが、平成 13 年度で突然終了しました。管理人や担当者の交代があり、社会貢献活動に対する認識の違いが原因だと思われます。

こうした中で、下見ガイドツアーに参加された大阪狭山市立南第三小学校の教頭先生から、隣接する陶器山観察会の打診があり実施しました。これを契機に、大阪狭山市の各小学校で、校庭観察会が開かれるようになりました。